

博物館
だより

ミニミニマイズ



第 196 号

2011.8

ジュニアサイエンススクール開催！

7月30日（土）～31日（日）にジュニアサイエンススクールを開催しました。今年は「火山博士になろう！～火山噴火で地上に運ばれてきたものを見つけよう～」というテーマで山元正継 准教授（鉱業博物館主事）・西川治 鉱業博物館専任講師らの指導のもと、標本採取や標本整理等を行いました。小学6年生 17名と博物館実習生も参加したにぎやかな2日間の様子を紹介します。



1日目 ～ 男 鹿（一ノ目湯・寒風山・安田海岸）～

開講式終了後、バスで男鹿へ向かいました。バスを降り一ノ目湯と二ノ目湯を見渡しなが、山元先生から目湯火山の成り立ちについて、また一ノ目湯で採取できるかんらん石はマントルを作る石であることなどの事前学習を受けました。一ノ目湯では人の背丈を超える草木をかき分けて進み、露頭の観察をしました。前日の雨で足場も悪く難作業になりましたが、子ども達は険しい急斜面に張り付いて夢中になってかんらん石の粒を探していました。博物館実習生の的確な手助けで作業は順調に進み、寒風山で和やかな昼食のひと時を過ごすことができました。寒風山から男鹿半島を見渡しなが、山元先生から寒風山のマグマの流れや岩石について教えていただきました。次は火山灰を見に安田海岸に向かいました。残念ながら突然の土砂降りの雨に見舞われ、火山灰の採取は思うようにいきませんでした。くっきりした地層の断面を目にして感嘆の声があがりました。一日の収穫に満足し帰路につきました。



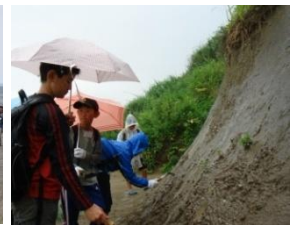
↑草木をかき分けて



←↑真剣そのもの



↑安田海岸へ



↑雨にも負けず

2日目 ～ 鉱業博物館（かんらん石収集・火山灰の顕微鏡観察）～



かんらん石

2日目は1日目に採取してきた岩石や砂を洗ったり、不純物を取り除いたりする作業から始まりました。岩石をハンマーで細かく砕いて、砂の中に含まれるかんらん石を見つけ出しました。半透明の淡緑色のかんらん石は思いのほか小さく、探し出すのに苦労していましたが、根気強い作業によって自分の手で見つけることができ大変喜んでいました。午後からは西川先生の指導のもと、顕微鏡で火山灰の観察をしました。安田海岸で採取し

た戸賀火山灰、遠く阿蘇山や洞爺火山から飛んできた火山灰のプレートを作成し、顕微鏡で観察し比べてみました。地域によって粒子の大きさや色などに違いがあり驚きの表情を浮かべていました。最後は西谷館長から一人一人に修了証が手渡され、無事2日間の日程を終えることができました。



↑石を砕いて



↑ひたすら探して



↑観る！



↑参加者全員で記念写真

感想文集よりの

小学生の作文集より

「火山博士になろう！」で分かったこと

私は「火山博士になろう！」の1日目は火山の石を見るのをがんばりました。石を見るのはがけで大変だったけど、赤やみどりや黒の石を見れたのでよかったです。次は男鹿の海で地そうを見に行きました。雨がふって火山灰はあまりとれなかったけど、地そうはすごかったです。

2日目は附属鉱業博物館の中で、1日目にお兄さん達がとってきた赤やみどりや黒の石を水で洗って金づちでその石を割りました。石はかたくてわるのが大変だったけど、なれるとうまくわれるようになりました。ほかにもオリビンというのも見つけました。そのあとにおが、とうや、あそいちという火山灰を調べたりしました。もっといろいろ火山のことを調べてみたいです。(6年生 Kさん)



→ノ目ノ

実習生の感想文より (一部抜粋)

○博物館では普段は展示が主ですが、今回のような子どもたちに体験を通して学ぶ場を提供することも大事なんだと感じました。(大学3年 Wさん)

○子ども達と実習生を含むスタッフに事故がなくて、また30日に安田海岸で集中豪雨に遭って皆ずぶ濡れになったにも関わらず誰も体調を崩さなくて、本当によかったと思う。また、30日にはさすがに子ども達も皆、帰り際には疲れていたようであったが、31日には皆楽しそうに迎えに来た保護者の方に体験を報告していたようだったので、イベントとしてもまずは成功だったのかなと、思う。イベントに参加しての個人的な感想としては、岩石の露頭からの採取は初体験だったので大変興味深く、将来教員や博物館スタッフになれた際には、この体験をぜひ活かして子ども達に指導をしてみたいと思う。(大学3年 Mさん)

○ジュニアサイエンススクールの活動では、お助け班として参加した。初日の午前には子ども達へ渡す鉱石を取りに寒風山へ行くという別行動をとった。険しいやぶの中へ入るといってもあまり経験したことのないものだった。午後の部では五里合の安田海岸へ行き火山灰の採取に取りかかった。急な土砂降りのため、子ども達が火山灰を採ることはできず、スタッフと大学生で急いで採取した。こうして初日を振り返ると子ども達と接する機会は少なかったが、子ども達のために準備を行う大変さを知った。寒風山での鉱石の採取や雨の中での火山灰の採取は子ども達の活動の見えないところで行っており、企画を支える大切さと大変さを知ることができた。(大学4年 Wさん)

シールド自走支保の 展示用建屋が完成しました！



このほどシールド自走支保の展示用建屋が完成しました。シールド自走支保は平成6年の鉱業博物館創立三十周年記念の際に寄贈されたもので、屋外敷地内に展示されてきましたが、建屋の老朽化が進んでいました。そのため今回の百周年記念のリニューアル工事の一つとして6月から新たな建築が進められてきました。シールド自走支保は重さ約9000Kg、最大高さ約1900mmもあります。

まず大型クレーンでシールド自走支保を移動し、敷地の整地、周辺の不要枝の伐採等を経て、先月完成に至りました。サビが目立つ状態でしたが、きれいに磨かれ塗装し直されました。建屋は博物館玄関左側に位置していますが、外壁には二面に渡って大きなガラス窓が取り付けられ、外からでも全体がよく分かります。建屋内に入って間近に見学することもできます。



この自走枠は、1994年頃まで、太平洋炭鉱(釧路市、2002年閉山)において、海底下約700mの切羽(石炭採掘場)で使用されていたものです。

